

脳神経内科 スタッフ募集

国立病院機構大阪刀根山医療センター脳神経内科では、常勤医師・専攻医を募集しています。神経筋難病の医療や臨床研究に興味がある先生は末尾の連絡先までご連絡ください。

当院脳神経内科の特徴

政策医療を担う国立病院機構の施設として、神経筋難病を中心とした診療を行っています。概要は当院ホームページ(「診療科と部門のご案内」「脳神経内科」、「当院の専門外来」「すくみ足外来」・「筋ジストロフィー外来」「睡眠外来」・「もの忘れ外来」・「小児神経内科外来」)をご覧ください。

筋ジストロフィーについては、専用病棟を有し、大阪府下にとどまらず近隣府県からの通院患者も多く、1,000名以上と日本ではトップクラスです。神経難病では大阪北部(豊能地区)の基幹病院として、パーキンソン病や多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などの患者を各々100名以上の単位で診療しています。このため、筋ジストロフィーや難病についての豊富な診療経験を積むことができます。

日常診療においては、院内・地域の多職種・多機関と連携し、診断からターミナルまで継続的に best practicable care の提供を行っている他、電気生理検査や画像検査、高次脳機能評価、病理学的検査(剖検含む)、遺伝学的検索については、内外のエキスパートや専門施設とも連携し、診断能力の向上に努めています。

神経内科指導医が7名と指導体制は充実しており、日本神経学会教育施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本臨床神経生理学会教育施設、日本神経病理学会教育施設です。

臨床研究・治験

難病においては、医療レベル向上に臨床研究や治験の実施が不可欠です。当院では以前から臨床研究活動が盛んで、学会や論文での業績も豊富です(詳細は当院ホームページ「診療科と部門のご案内」「臨床研究部」「業績集」をご覧ください)。若手の学会発表や論文作成も積極的に支援しています。

筋ジストロフィーや神経難病の研究班に代表・共同研究者として参加しているほか、学会・研究会活動も積極的に行っています。病理部門では Research Resource Network (いわゆる Brain Bank)活動を行っており、患者さんの検体を研究資源として活用する体制を取っているほか、Parkinson 病では光療法など独自の取り組みを行っており、筋ジストロフィーでは Drug repositioning による治療薬開発にも取り組んでいます。企業治験も積極的に実施しています。

こうした成果を踏まえ、「デュシェンヌ型筋ジストロフィー診療ガイドライン 2014」は編集責任者、「筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン 2020」は委員長、「重症筋無力症診

療ガイドライン(作成中)」は編集委員として参加しています。

当院での研修・勤務について

筋ジストロフィー、神経筋難病の診療、研究に興味のある方にとっては魅力的な施設だと思います。当院での経験を基に、大学や研究機関等での研究を望まれる場合は希望に合わせてご紹介します。難病医療を志望していない方でも、診断からターミナルまでの全ステージの患者さんを診ることは有意義だと思います。一方、脳血管障害や頭痛・めまいなど急性期疾患についての経験を希望される方は不向きです。研修期間中に当院に来られる場合は、他の医療機関で急性期疾患の経験を持つようにして下さい。

当院での診療に興味を持たれた方は、下記にご連絡いただければ幸いです。皆さんと一緒に仕事できることを心待ちにしております。

特命副院長・臨床研究部長	松村 剛	matsumura.tsuyoshi.kq@mail.hosp.go.jp
脳神経内科部長	豊岡圭子	toyooka.keiko.yq@mail.hosp.go.jp